

現場
代理人
レポート

新濃尾(二期)農地防災事業 新木津用水路小牧東田中工区(その1) 改修工事

本地区は、濃尾平野のほぼ中央、愛知県北西部で名古屋市の北側に位置します。戦国時代の只中、織田信長が自身初めて築城した小牧山城のある歴史色の濃い地区です。本工事の新木津用水路(延長10.6km)は、1級河川薬師川との共用区間(延長2.0km)や大山川との交差点を含む農業用の用排兼用水路で、犬山頭首工より取水した用水を受益地に配水する機能と、降雨時には木津用水からの排水に加え用水路東側から流入した排水を大山川や八田川等へ流下させる機能を併せ持っています。周辺の都市化の進行に伴い、豪雨時の排水流出形態の変化により、排水能力が不足し、洪水被害が生じているため、水路断面を拡幅する工事を行うものです。



工事は、河川改修区間約130mで既設水路を取壊し、新たに護岸工(ブロック積854㎡)、底板工100m、プレキャストL型擁壁水路工30mを構築します。工事現場上空には、東名高速道路・中圧ガス管(400A)・水道管(φ500mm、2箇所)・市道橋梁が近接しているほか、民家に隣接するなど厳しい制約条件下での施工となっています。周辺は、交通渋滞の多い生活道路となっているため、工事施工に伴う騒音・振動・粉塵には十分配慮した施工に心掛け、営農作業に支障を来たさぬように、3月末の通水開始に向けて職員・協力会社一丸となって災害ゼロでの工期内竣工を目指しています。

監督職員からのエール

本工事は、新濃尾農地防災事業の新木津用水路の改修工事のうち、1級河川薬師川との共用区間における河川改修事業との共同工事として実施するものです。本工事は、河川内工事であるため、河川内の工事期間が11月から3月に制限されるほか、東名高速道路や市道橋との交差点であるとともに、水道管やガス管などの支障物や民家が隣接するなど、工事実施に当たって様々な制約条件があります。

そのような現場の中、現場代理人兼監理技術者の田中所長は、想定外の埋設物への対応や近隣住民への配慮など、安全を第一にかつ工期内に工事が完成するよう、日々現場内や近隣住民への対応に奔走しており、監督職員としても頭が下がる思いです。厳しい施工条件の中での工事ではありますが、安全対策を徹底し、無事故無災害で工事を完成させるよう、ともに頑張っていきましょう。



監督職員

(写真右) 東海農政局新濃尾農地防災事業所

工事第二課長 児玉 研悟

現場代理人

(写真左) 株式会社鴻池組

新木津用水路工事事務所 田中 隆樹